

「長崎県における磯焼け対策ガイドライン」の改訂について

長崎県総合水産試験場 種苗量産技術開発センター 介藻類科

はじめに

温暖化による藻場の変化が問題化してから二十年以上が経過し、長崎県各地で普通にみられたアラメ・カジメ類は、多くの地域から姿を消すなど、藻場の衰退・消失が深刻化しています。このため、水産試験場では、これまで、温暖化による藻場への影響を調査し、環境変化に応じた藻場造成技術の開発に取り組んできました。その成果は「長崎県における磯焼け対策ガイドライン（長崎県水産部二〇一二）」として取りまとめ、これまで本誌第二〇八号（二〇一二）への掲載や学習会等を通して、その普及に努めてまいりました。

また、長崎県水産部では、平成二十八年に「長崎県藻場回復ビジョン」を策定し、県内の藻場を十年間で二千ヘクタール回復させる数値目標を掲げ、地元、行政、水産試験場が一体となった新たな藻場回復の取り組みを進めています。

このようななか、ガイドラインの公表から六年が経過し、藻場造成に係る新たな知見や情報が蓄積されてきたことに加え、皆さんの活動成果を含める形で、この度、ガイドラインの改訂を行いました。八月に公表を予定していますので、その内容についてご紹介します。

ガイドラインの構成と概要

現行のガイドラインでは、表一に示しま

表1 「長崎県における磯焼け対策ガイドライン」の新旧対照表

現行 (H24年～)	改訂 (H30)
1章 長崎県の藻場の実態 1-1 大型褐藻類の衰退 1-2 藻場の変化 1-3 変化の原因	1章 藻場造成の準備 1-1 作業手順(計画から実施まで) ・藻場の類型化による藻場造成手法 1-2 効果の検証
2章 藻場の類型化 2-1 藻場の類型化 2-2 四季藻場と春藻場	2章 取組み事例 2-1 試験場による藻場造成試験 2-2 漁業者等による活動成果事例(新) 2-3 民間企業による藻礁試験事例(新)
3章 藻場造成技術 3-1 海藻の基礎知識 3-2 植食性動物の特長 3-3 藻場造成の応用 3-4 藻場造成の事例	3章 藻場造成の要素技術 3-1 種の供給、種苗・成体の移植 3-2 植食性動物対策 ・ウニ対策 ・魚対策
	4章 藻場造成における基礎資料 4-1 温暖化による藻場の変化 4-2 魚類の食害による海藻への影響 4-3-4 県内の主な海藻と植食性動物 4-5 海藻バンクの整備状況(新) 資料集(新:4-3-4の補足)

コラムの充実

すように、まず、これまで経験のなかった温暖化による藻場の変化の実態とその主因が魚の食害であることを知っていただくため、第一章で紹介しました。

次に、温暖化による藻場への影響を理解した上で、第二章では、温暖化に対応した新たな対策として、水産試験場が提案した「藻場の類型化に基づく藻場造成」手法について紹介しました。

第三章では、藻場造成の実施にあたり必要となる海藻と植食性動物に関する知識や造成技術に加え、試験場の実証試験結果をそれぞれ整理しました。

ガイドラインの普及に伴い、これまで問

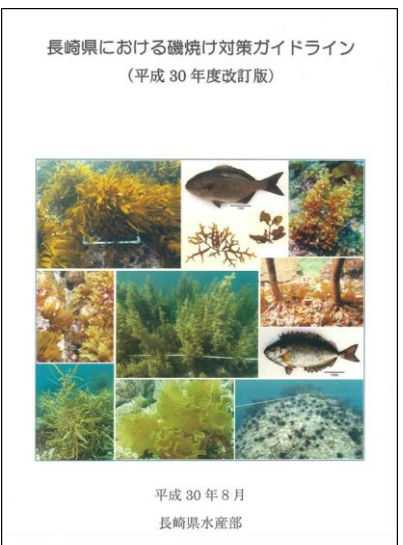
題視されていなかった魚の食害の甚大さが徐々に認識されるようになり、増殖対象種も、従来のアラメ・カジメ類からホンダワラ類への転換や漁場環境に応じた増殖対象種の使い分けの必要性が理解されるようになり、「藻場の類型化」に基づいた造成手法が浸透し始めたところです。

今回の改訂版は表一のとおり、四章と資料集からなります。第一章では、藻場造成を計画的、効率的に行うため、地域での活動の位置付け、短長期的な目標、具体的な作業内容、効果の検証等の事前に準備・整理すべき必要事項をまとめています。

第二章では、藻場造成の成果事例として、試験場による実証試験結果、県内各地での皆さんの活動成功事例、民間企業が提案した藻礁設置による海藻増殖試験の成功事例をそれぞれに取りまとめています。

第三章では、藻場造成の共通作業である「海藻の種の供給」やウニ・魚の「駆除・防護」の様々な方法について、長所と短所を整理するなど、地域の実情に応じた対策を選択する際に役立てようとするものです。

第四章では、末尾の資料集と合わせて、



ガイドラインの表紙

藻場造成を行う上で、増殖対象種の選定や食害対策を検討する際に、求められる海藻と植食性動物の種類、分布、生態的特徴等について取りまとめました。

現行のガイドラインとの大きな違いは、現場での活用を意識した内容や構成に再編集し、①第一章で、藻場造成を行う前の準備作業について整理したこと、②第二章で、藻場造成を実践するにあたり作業の手法となる藻場造成に関する最新の活動成果事例を新たに加えたこと、③第三、四章では、藻場の変化の実態や海藻の異常現象、魚の漁獲試験や摂食生態等、藻場造成に必要となる調査研究の成果や新たな知見を整理すると共に、「コラム」欄を設けて、わかりやすく整理したこと、④藻場造成の参考となる代表的な海藻や植食性動物の情報について資料集として取りまとめたこと、⑤ガイドラインを活用し易いように索引を設けた点等です。

おわりに

藻場を取り巻く環境は、温暖化の影響下にあると言えますが、短長期的な気象・海況の変動は一定しておらず絶えず変化していることから、藻場を守って行くには、常日頃から藻場を監視し、継続した対策を講じていく必要があります。そのため、引き続きガイドラインの充実化を行っていき、最新の藻場造成に関する情報を提供していきますので、本冊子が今後も長崎県の藻場回復活動に大いに活用され、消失した藻場の回復に貢献することを期待します。

(担当 桐山 隆哉)